

## 所報 研究所だより

## 教育・しまんと

令和5年度  
NO. 7

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地  
Tel/Fax (0880) 37-2817  
ふれあい学級(0880) 31-1130

## ★本年もよろしくお祈いします。

新しい年は、気候的には昨年と同様に温かく穏やかな幕開けとなりましたが、元日早々石川県を中心に発生した「能登地震」では、多数の犠牲者が出ると共に被災が深刻な状況です。さらに、羽田空港では旅客機と海上保安庁の翼機との衝突事故が発生する等、心を痛める事象が相次ぎ各方面に大きな影響が出ています。一日も早い復興と安全な運航を願うばかりです。

さて、各学校におかれましては、一年の締めくくりの学期を迎えました。小学6年生にとっては、6年間のまとめの学期であり、中学校生活に向けてのジャンプの時期でもあります。

また、中学校3年生にとっては、義務教育9年間の締めくくりの学期であると同時に、「進路決定」の重要な時期でもあります。

児童・生徒一人ひとりが、それぞれの学年のまとめをしっかりと行い、明るい希望をもって、何事にも「チャレンジ」してほしいと思います。

さらに、それぞれの学校におかれましては、本年度の教育活動の検証・集約及び次年度へ向けての青写真を描いておられることと思います。

成果の継承と課題克服に向けて、全教職員一丸となり「ワンチーム・チーム学校」で、取り組んでいきましょう。

## ★教科担当者会（中学校）について

高知県学力定着状況調査結果等に関する中学校の教科担当者会を、下記の日程で開催いたします。西部教育事務所の指導主事を迎えて指導・助言もいただきます。

各中学校におかれましては、何かとご多用のこととは思いますが、関係教員の出席につきまして、ご配慮いただきますよう、よろしく

お願いいたします。

尚、研修会場は、いずれの教科も教育研究所となっております。

また、時間は英語だけ14時30分からで、他の教科は全て15時開会となっております。

## 【 社会 】

- ◆令和6年 1月16日（火）
- ◆講師：河野通久指導主事

## 【 理科 】

- ◆令和6年 1月25日（木）
- ◆講師：小谷野竜介指導主事

## 【 英語 】

- ◆令和6年 1月30日（火）
- ◆講師：有田洋平指導主事

## 【 国語 】

- ◆令和6年 2月 1日（木）
- ◆講師：白石千穂指導主事

## 【 数学 】

- ◆令和6年 2月 6日（火）
- ◆講師：岡崎寛貴指導主事

## ★第2回サークル連絡協議会について

- ◆日程：令和6年 1月23日（火）
- ◆時間：16時～
- ◆会場：教育研究所

## ★第3回運営委員会について

- ◆日程：令和6年 2月 8日（木）
- ◆時間：16時～
- ◆会場：教育研究所

## ★2024年の干支「辰」(たつ)は 生命や物事の始まり、成長の意味

十二支を干支(えと)の意味で用いることもありますが、本来は十干(じっかん)と十二支を組み合わせたものを干支と呼んでいます。

十干とは「甲」(きのえ)、「乙」(きのと)、「丙」(ひのえ)、「丁」(ひのと)、「戊」(つちのえ)、「己」(つちのと)、「庚」(かのえ)、「辛」(かのと)、「壬」(みずのえ)、「癸」(みずのと)の要素から成り立っています。そして十二支は12種類の動物で構成されています。

古代中国では、十干は日を順に10日ごとのまとまりで数えるための呼び名でした。10日ごとに「一旬(いちじゅん)」と呼び、3つの旬(上旬、中旬、下旬)で1ヶ月になるとして使われていました。

この十干十二支は、60通りの組み合わせにより、古くから暦のように使われてきました。

代表的なものが還暦で、60年で干支が一巡し、誕生年の干支に還ることが還暦の由来です。

2024年に迎える「甲辰」(きのえたつ)は、十干十二支の41番目の年にあたり、十干の1番目である「甲」と十二支の5番目である「辰」が重なる年です。

「甲」は十干の最初に出てくるもので、甲冑(かっちゅう)の「甲」の文字から鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表す文字です。また、生命や物事の始まり、成長も意味します。

「辰」は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表します。「辰」は竜(龍)のことであり、十二支の中で唯一空想上の生き物です。

東洋で権力・隆盛の象徴として親しまれていた龍は、身近な存在であったことから干支に選ばれたと言われています。

## ★過去の「辰年」での出来事

### ◆1964年(昭和39年)

- ・アジア初となる東京オリンピックの開催
- ・世界初の高速鉄道「東海道新幹線」が開業

### ◆1976年(昭和51年)

- ・植村直己が1万2000キロの北極圏ソリ横断を達成
- ・大和運輸が「クロネコヤマトの宅急便」を開始

### ◆1988年(昭和63年)

- ・青函トンネル、東京ドーム、瀬戸大橋等、大型建造物の竣工
- ・社会現象となった「ドラクエⅢ」の発売

### ◆2000年(平成12年)

- ・都営地下鉄大江戸線の全線開通
- ・BSデジタル放送の開始
- ・2000円札の発行

### ◆2012年(平成24年)

- ・東京スカイツリーの開業
- ・京都大学の山中伸弥名誉所長・教授がiPS細胞を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞

## ★まとめ

次の辰年である2024年7月には、国内で20年ぶりに新デザインの紙幣が発行されます。「甲」と「辰」が合わさる2024年は、辰年のキーワードである「変革(転機)」や「激動」が示すように、時代が動く年となるかもしれません。

大きな出来事が起こると予想され、これまでの努力が実って夢が叶いやすい年と言い換えられます。なかには努力が成果につながらないこともあるかもしれません。

しかし、くさらずに努力を続ければ水面下で着実に育ち、次につながる年になると言えるでしょう。